

いのち・未来 うべ通信 12号



わたしたちは原発のない安全な未来を
子どもたちに残すことを願って活動しています

〒755-0029 山口県宇部市新天町1丁目2-36 「青空内」 | TEL080-6331-0960(安藤携帯) | <http://blog.ne.jp/nonukes2013>

県は上関埋立免許延長の不許可を！

去る5月26日、上関原発を建てさせない山口県民連絡会は県庁を訪ね、上関原発計画予定地の公有水面埋立免許延長申請の不許可を求める申し入れをおこないました。

申し入れ事項は次の2項です。

- ① 上関原発計画予定地の公有水面埋立免許延長申請を不許可にすること。
- ② 過去6度にわたる県知事の質問とそれに対する中国電力の回答及び7度目の質問事項を山口県民に公開し、県政の透明度を高めること。

これに対し県側は

「反対する人が沢山いることは承知しているが、上関町に協力、国の方針で対応している。情報公開に対しては県条例11条で開示しないことができる。一点目は法人に関するもので不利益なものがあれば開示しなくともよい。二点目は県が意志決定過程にあって、公開することで混乱をひきおこす場合。この件はこの2点に該当する。審査中なので今は限りある説明しかできない。」

～もくじ～

☆ 上関原発を建てさせない山口県民連絡会が県に申し入れ	辻立ち「8周年」 小中 進 …4
…1	☆ 環境省 原発事故汚染土再利用企む
☆ 上関町・長島を訪ねて	…5 ☆ 上関住民訴訟第15回 口頭弁論
…2～3	…5 ☆ 美祿市で映画『日本と原発4年後』の上映
☆ 中国電力は上関原発建設強行の機をうかがっている	活動すすむ …6
…3	☆ 市民学習会から～誰にも固有の名前
☆ 上関原発は要らない	



連絡会の参加者からは「毎年同じくり返しだ。県民に理解をもとめる必要がある。誰に聞いても県の説明理由はわからないという。中電側にたってひきのばし、いずれ国が上関につくるといつてくれるのを待っているとしか思えない」「今、県がやっているひきのばしは一般企業に通用するのか、中電の保護ではないか」「県は公有水面埋立法に違反している。海は皆



申し入れ書を手渡す那須共同代表

のもの、免許の条件がクリアーされていなければ、県は埋め立ててはいけないという立場をとるべきではないか」「7回目も同じことをするのか。どのくらい県民が理解しているか、先日、田ノ浦の現地へ行ってきた。中電は大々的に道路の拡幅工事をやっている。県道を町道にして工事をしたあとは町に寄贈するという。県はからんでいるではないか。中電は原発を絶対やるという姿勢だ。県はそれを知っているから黒ぬりを出しているのではないかなどなど県の姿勢にたいする批判と要望があいついで出されました。

～上関町・長島を訪ねて～

上関町は室津、長島、祝島と3地域に別れ町役場は長島にあります。室津では県民集会など開催され、祝島には訪問の機会も多く、行かれた方もおられると思います。それで、一度長島を訪問し、原発建設を巡る動きと歴史を訪ね、読者、会員の皆さんに現況を知らせたいと思います。今回長島を訪ねました。

朝7時40分宇部出発、10時30分室津到着。渡船場で案内して下さる2人の方と落ち合う。車2台に分乗し出発しました。上関大橋を渡った左側、展望台に立つと真向かいに平郡島をはじめ、美しい海と島々が眼下に広がります。

しばらく行くと道の左側に「源電に反対する人は上関町に来ないで！」と書かれた大きな看板に迎えられました。車を進めると道路拡幅工事に突き当たります。現場には「中国電力(株)主体事業」と書かれた看板が立てられています。

拡幅工事のことは耳にはしてはいましたが私の想像をはるかにこえる大規模な工事で、工事費の一切を中国電力が出していると考えられます。工事は曲がりくねった道の高さ数十メートルの

私たちは改めて中国電力の原発建設の本気度をうかがい知ることが出来ました。

しばらく走ると車で通行できなくなり下車、下り道になった細い山道を歩いて原発立地点・田ノ浦に向かって進みました。左側には中国電力のフェンスが延々と続き、所々に「立ち入り禁止」の看板が取り付けられています。

歩を進めると右側の小高い所に団結小屋が見



大々的に進む中国電力の道路拡幅工事

えてきました。団結小屋は原発建設を巡る攻防の拠点として、また、団結のシンボルとしての役割を果たしました。団結小屋に近づくと私の思っていた以上に頑丈につくられていて原発反対派の意気込みを感じました。団結小屋を右手に見て進むと木立に原発建設絶対反対、住所氏名が書かれた板があっちこちにくくりつけられていました。20年くらい前、トラスト運動(立木を買い、土地の買収をふせぐ)が行われ大分県や愛知県など全国各地から駆けつけた人々の思いが今に引き継がれている上関原発反対運動だと思いました。出発して1時間30分、ついに上関原発立地点・田ノ浦に到着。目の前に広がる美しい海、岩場には海草がしげり、正面に祝島が見えます。田ノ浦湾の一角には真水が湧き出し他に見ることのできない生物が生息しているとのこと、本当に貴重な場所だと思いました。

もし、公有水面埋立が許可されれば取り返しのつかない事態を招くことになります。県知事の賢明な判断を強く要請します。

弁当を食べながら祝島を眺めていると学校の



我がものの顔の推進派の看板

山を切り崩し海側に埋立て、2車線の道路にするらしく、現在、拡幅工事は数カ所で行われています。

中国電力は工事を進めやすくするために、県道を町道に名義がえし、周りの土地を相場以上で買収、拡幅工事終了後、町に寄付する。別名「原発道路」とも言われています。



立木トラスト～上関原発反対運動の足跡

放送が聞こえてきました。まさに祝島の人々が口にする「原発建設予定地とは目と鼻の先」との言葉をかみしめました。

美しい自然と海に支えられた千年にわたる命の営みが「海は売らない」との人々の叫びとなって34年もの長いたたかいを支え続けてきているのです。

3. 11福島原発事故後本格的な工事は中断していますが「今後に備えて」現場では工事車両が出動し労働者が働いています。海から山側に向かって右側山すそには、原発の温排水を出すためのトンネルを見ることも出来ます。帰りには上盛山展望台に案内していただきました。長島を中心に360度展望出来る絶景です。美しい海と島々を見ながら「原発で汚されなくてよかった」と34年闘い抜かれた上関町の人々に心から感謝し、ともに戦うことを決意しました。

追記 この度、同行案内を気持ちよく引き受



上盛山から見た長島

けて下さった小中進さんらお二人に大変お世話になりました。長いたたかいの年月、「原発」が頭から離れたことはないと言われるお二人の適切な案内と様々な気配りに心からお礼を申し上げます。車中お話を聞く中で、原発をめぐる厳しい現実の一端を知ることが出来ました。2人のお力ぞえがあってこそその有意義な上関現地訪問をすることが出来ました。振り返りに小中さんの「宇部でがんばってもらわんと」という言葉に上関原発反対運動を進めてきた人々の絆を感じつつ帰途につきました。(H)

中国電力は上関原発建設強行の機を伺っている

私はこの3月、3.26上関原発を建てさせない山口県民大集会の賛同者を募るためいろいろの方々と話す機会がありました。「あの福島の大惨状から原発は建つ筈がない」「上関出身者からもう原発は建たないと聞いた」という声がありました。普通このように考えるのは当然のことと思いますが、現況は違って中国電力は依然として原発を建てようとしています。それは以下のことが示しています。

- ① 中国電力の公有水面埋立免許延長申請に対し山口県知事は精査中という名目で引き延ばし、不許可としていないこと。
- ② 現在4件の裁判が継続中です。
 - 埋立取り消し訴訟(2008年提訴)
 - 自然の権利訴訟(2008年提訴)
 - 4800万円損害賠償請求訴訟(2009年提訴)
 - 上関原発用地埋立禁止住民訴訟(2013年提訴)
- ③ 上関ではいま、中国電力が原発予定地の田ノ浦に通じる大規模道路拡幅工事を行っています。この件に関しては前掲の記事のように「通信」の取材班3人が工事を確認してきました。田ノ浦の地形と原発に係る経緯に詳しい2人の方に案内していただきました。この日は土曜日でしたがブルドーザーが何台も動き、突貫工事のようでした。(T)

上関原発はいらない！辻立ち「8周年」 小中 進

2008年7月1日より始めた「上関原発計画を止める」辻立ちは本日で8年目を迎えました。

当時、上関原発計画は中国電力が国や県と原発推進で足並みをそろえ、上関町地元の2市4町も追随しました。

県民の大多数は「上関原発は無い方が良い」としながらも「電気を使用しているから」表だって行動することも少ない中で中国電力は埋立予定海域の「公有水面埋立免許の申請」を県に提出して着実に建設に向けて動いていました。

一方、反対運動の中心でもある祝島では、島内デモも1000回を超え祝島の目と鼻の先に建設される原発に対する反対の意識は高く本土側との温度差を感じていました。

ところが5年前の福島第一原発事故以来「原発は、安全だと言っていた中国電力に騙されていた」と県民の原発に対する認識が大きく変わりました。

祝島の皆さまの上関原発反対の想いを支援するために、次の世代の「子供達のために」つなげよう原発のない上関にと始めた辻立ちも、本日で8年目を迎え2,617回目となりました。

「山口から日本の政治を変える」参議院選挙



の真最中で、同日柳井市では上関原発反対の候補者の朝立ちもあり、選挙を優先に取り組みました。ネットを通して広島県や宇部市、周南市より14名の皆さんが駆け付けて頂きました。心より感謝申し上げます。

小中進さんの7月1日のブログから

<http://blog.konaka.sunnyday.jp/>

◎ 一朝一夕では成し得ない実践を長年にわたって貫き通し山口県における原発建設反対運動に多大な貢献をしてこられた小中さんの努力に敬意を表します。(K)



読者からの投稿

初夏の夕暮れ時、始めていのち・未来うべの原発を訴える行進に参加しました。そのとき長門市での小学校時代の思い出が蘇ってきました。講堂の壁一面に立てかけられた原爆写真展。それは、子ども心にもおそろしい写真でした。先生達は子どもたちに戦争の残虐さ、平和であることの大切さを学んで欲しかったのだと思います。

福島原発事故以降、自分なりに出来る範囲で原発の運動に参加してきましたが、これからもいのち・未来うべの仲間とともに原発反対のたたかいに加わり、子どもや孫に原発の負の遺産を残さないために頑張りたいと思います。(K)

第5回定期総会案内

日 時 9月11日(日) 14時～16時

場 所 宇部市まちなか環境学習館3F

(宇部市中央町2丁目11-21)



いのち・未来 うべ通信

11号で上関お魚パック

の紹介をしましたが、

申し込みの宛先があり

ませんでしたので改めてお知らせします。

注文先は

FAX 0820-62-0710

または、はがきで山口県熊毛郡上関町

室津1103-5

高嶋美登里様宛てに送って下さい。

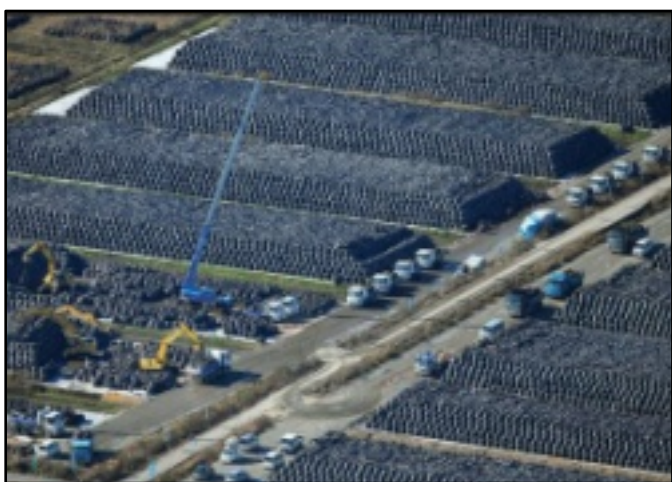
環境省 原発事故汚染土を 公共事業に再利用企む

耳を疑うような情報ですが、環境省は2016年3月30日原発事故の除染で出た8000ベクレル/kg以下の汚染土を全国の公共事業で再利用すると発表しました。

福島県にはフレコンバッグにつめられた汚染土が至る所に野積みされ総量は2200万立方メートル(東京ドーム18個分)とも言われています。福島県民は放射能被曝を恐れ、汚染土を安全な場所に移すよう要求し続けてきました。

政府は局面打開のためと称して「県内に中間処分場を建設して汚染土を持ち込む。その後30年以内に県外に最終処分場を建設し、中間処分場から汚染土を移し保管する」という協定を福島県との間で結びました。この「県外に最終処分場の建設」に福島県民は疑問を持っており、当面のその場しのぎの方策でしかありません。

政府と福島県との協定が出来ると環境省は「福島県民の負担を全国で分かち合う」と福島県民への同情心、連帯感の問題にすり替えて汚染土の全国への拡散を強行しようとしています。



汚染土を詰め込んだ膨大な量のフレコンバッグ

そもそも福島の惨状をもたらした元凶は長きにわたる政府・自民党の原発推進政策とこれに便乗した電力会社にこそあります。決して想定外の自然現象の問題ではありません。

現状からは中間処分場も最終処分場の建設も思うように進まないことが容易に予想されます。そこで2200万立方メートルの汚染土を中間処分場に運び込む前に全国の公共事業で使い汚染土

の減量化をはかろうとしているのです。そのため政府は原子炉等規制法の「100ベクレル/kg以下は埋立可」とする現在の規定を「8000ベクレル/kg以下は埋立可」と、汚染濃度の基準を実に80倍もゆるめる暴挙を働きました。

環境省は8000ベクレル/kgの汚染土を全国の公園、緑地、宅地の埋立に使い、日本を放射能汚染列島にしようとしています。

以上の事態をふまえて次の2点を政府、東電に強く要求するものです。

第一に、放射能廃棄物は移動せず、現地に封じ込めること、福島原発のまわりは高濃度に汚染され、長期にわたって生活できません。すべての廃棄物を封じ込め管理すること。

第二に、国と東電は責任を持ち、汚染地域に住民を帰還させず、汚染されていない地域に移住して生活できるようにすること。

全国緊急署名活動に取り組む

いのち・未来うべは8000ベクレル/kg以下の汚染土を公共事業に再利用する政府の方針に反対して署名活動を行っています。市民からは「これでは全国に放射能をばらまくことになる」と驚きと怒りの声が寄せられています。

上関住民訴訟第15回口頭弁論

中国電力の上関原発用地の埋立免許延長申請を県知事が不当に判断を先のばしして県財政に損失を与えていると損害賠償を求める住民訴訟の口頭弁論が6月1日、山口地裁で開かれました。

被告知事側は、原告が裁判所に要請した「文書提出命令」が出される前に、県と中電がやり取りした文書を任意に提出する可能性も検討、と臭わせるなど、核心に迫りつつあります。

公判後の報告集会で田川原告弁護団長は、「黒塗り文書が全面公開されれば、判断先のばしの不法性が明瞭になる。

県議有志も情報公開条例で全面公開を求めており、いろんな角度から真相を明らかにし、上関原発中止へつながって行きたい」と話しました。

次回は9月14日午後3時からです。

美祢市で映画『日本と原発 4年後』の上映活動が進む。

美祢市では有志の方々によって映画『日本と原発 4年後』の上映活動が下記要項で進められています。

◎ 上映日時 8月21日 1回目 13時30分

(30分前開場)

2回目 18時

(30分前開場)

◎ 上映場所 美祢市民会館ホール

◎ チケット 一般 800円 (当日券 1000円)

中高生 400円 (当日券 500円)

◎ 問い合わせ先 美祢市大嶺町3025(中村上)

映画『日本と原発 4年後』
を美祢で観る会

呼びかけ人代表 中嶋恵子

TEL 090-2299-8890

同会ではこの上映活動を成功させるために、次のような趣意書を美祢市民に配布して広く呼びかけを行っています。

ー映画『日本と原発 4年後』を美祢市で上映する.ためにー 2016年4月吉日

大きな宣伝もなく、2014年11月18日に、シネマート六本木で封切られた映画「日本と原発」ー私たちは原発で幸せですか?が、去年は、1000回以上(観客動員数約7万人)日本各地で自主上映され、2015年度キネマ旬報文化映画ベストテンで9位を獲得しました。

私がこの映画の存在を知ったのは昨年6月のことで、県内ではすでに、2月に防府市で、3月には山口で上映されていました。

福島原発事故以降、漠然とした不安や疑問を抱いていた私は、早速、下関の友人と一緒に下関菊川へ、7月には宇部や美祢の仲間を誘って宇部市に観に行きました。その後『日本と原発

4年後』の完成を知り、私が住んでいる周辺の人たちにひとりでも多くこの映画をみてもらい、関心を持って自分のこととして考えて欲しい、その為には、是非、美祢市で上映したいという思いが日に日に強くなっていきました。周囲にその思いを伝え、その呼びかけにこたえてくれた仲間とともに、本年3月30日に「映画『

日本と原発 4年後』を美祢で観る会」を発足、活動を開始しました。

このドキュメンタリー映画は、思想信条ではないファクトにこだわった構成で、原発の仕組み、歴史、福島の事故から現在に至るまでの原発のすべてを網羅した、予備知識がなくとも原発のすべてが分かるようあらゆる角度から描かれた原発総集編で、昨年上映された一作目の「日本と原発」の改訂版と位置づけられた作品です。

今を生きている私たちは、積み重ねられた選択によって形作られた社会の中に居ます。未来を担うこどもたちへ美しい自然といのちを繋いでいくため、私たち大人がこの映画を観て、これからのエネルギー政策はどうあるべきか、ひとりひとりが考え、選択していく為の判断材料としていただきたいと思いますので、多くの方々のご参加ご協力を心よりお待ちしております。

☆ 美祢有志の方々による真摯な活動に拍手を送るとともに具体的な支援活動を呼びかけます。美祢市の近辺に在住する知り合いの人々にも呼びかけて上映活動成功の一端を担いましょう。



市民学習会から**誰にも固有の名前と人生がある**

福島第一原発(イェフ)の事故は、この国が人間、ことに小さき者をいかに守らないか、いわんや労働者をやという現実を見せつけている。

市民学習会で「作業員の健康管理と被ばくの低減」を担当し、原発作業員の状況を知るにつけ、あるべき姿との余りの乖離に気が遠くなった。そもそも、このような人を人とも思わない被ばく労働を前提にした科学技術などあつてはならないのに、それを前提に被ばく問題を論じねばならぬというジレンマたるや。

時計を5年と2カ月前に戻せるなら、原発をすべて廃炉にし、最低限の被ばく労働にとどめることもできたかも。しかし、いまやイェフのお守りのために、永遠に誰かが被ばくを余儀なくされる世界となってしまった。しかも、私たち自身、ともすればこの被曝労働の存在を忘れがちだし、デモで「命が大事」と叫んでも、原発作業員の命にまではなかなか思い至らない。

初めての原発裁判<伊方 住民の主張1973年8月>の中で鋭く述べてあるのは、まさにコレなのだ。原発は「被ばく労働という命を削るような労働：労働そのもののの中に差別的な構造を内包」しているのだ。

イェフの作業には不安要因が実に多い。雇用（重層的な下請構造／日雇い／使い捨て／ピンハネ）・技術（熟練工の不足一事故の半分以上が未熟練者によるもの）・健康管理（不正が横行／労災認定わずか／医療保障なし）・高い線量限度(注1)・人員確保（作業員確保は2018年度以降予測不能と東電！）……

この中の労災認定について少し触れる。

原発は、定期的に停め、限られた期間に定期検査を終えなければいけない(注2)。1基の定期点検には3千～5千人の労働者が必要なので、1963年から稼働している日本中の原発のために、延べ50万人以上が被ばくしてきた。だが労災認定は2008年までの45年間で10人だけ。

29歳で亡くなり両親が闘い労災を勝ちとった嶋橋伸之さん等、白血病しか労災を認められていなかったが、2004年、多発性骨髄腫で長尾光明さんが（初めて生きているうちに）認定され、2008年、故・喜友名正さんが悪性リンパ腫で認定。このように固有名詞が頭に入るぐらい認定件数が異常に少ないのだ。このことは、労災をまともに認めると原発の稼働に支障を来すと、当局が誰よりも知っている証。

現在、イェフでは毎日7千人が働いている。今後彼ら一人一人の大切な命・健康はどうなるのだろう(注3)。だのに、川内や伊方を動かしてさらなる被ばく者をふやすとは！

1979年に被ばくした梅田隆亮さんが「私のような人間をもう出してほしくない」と闘ってこられた裁判の判決が、熊本地震の翌日4/15に福岡地裁で出た。労災不支給の決定を追認する不当判決で、小さな記事だった。

闘いは福岡高裁に移り11月7日14時から第1回が始まる。心を向けていただければと思う。

『樋口健二写真集 原発』の中で、1974年、初の原発労災訴訟で風穴をあけ、まさかの全面棄却を喫した岩佐嘉寿幸さんが闘病中の姿でこちらを強く見つめる。それは私の中の後ろめたさを射抜く。

大原洋子

(注1) 緊急時線量限度

事故後250mSv ⇒ 2011. 12. 16収束宣言100mSv⇒2016. 4より250mSv（通常時は100mSv/5年& 50mSv/年。なお一般人は1 mSv/年）

(注2) 2008年、従来13カ月ごとだった定検を3区分（13・18・24カ月ごと）に変更

(注3) 作業員の集団被ばく線量、福島原発事故後5年間に事故前の6倍超（事故前の5年間91人シーベルト⇒事故後5年間590人シーベルト）（参考文献）堀江邦夫『原発労働記』寺尾紗穂

『原発労働者』布施祐二『ルポ イチエフ』

鹿児島県知事選での快挙！

川内原発再稼働に警鐘をならし続けてきた三反園氏が当選しました。

川内原発反対運動は幾多の人々の生活を賭けた闘いによって受け継がれてきました。とりわけ福島第1原発事故はひとたび原発事故を起こせば、一国の存亡の危機をももたらしかねない甚大な被害となることが明らかになるなかで、川内原発再稼働反対の声は県内外で強まりました。

4月熊本地震発生後、川内原発が活断層・中央構造線の西端部分の直近に位置していることも県民の不安を一層増大させました。それにもかかわらず伊藤県知事は九電の言いなりになり原発再稼働を容認し県民の安全については傲慢な態度で無視し続けてきました。鹿児島県知事選挙はこうした情勢のもとで行われました。三反園訓氏は市民団体と「川内原発を停止、点検するよう九電に申し入れる」との政策協定を結び、多くの県民の願いを掲げて当選しました。

投票結果は三反園訓 425,893 伊藤裕一郎 341,695 投票率56.77%(前回43.85%)

投票率13%アップに見られるように県民の怒りが投票行動に結実したものと思われます。このことは、自民党王国と言われる厚い支持基盤の上にあぐらをかいて、反対派の意見には一切耳をかさず無視してきた伊藤氏の傲慢不遜な政治姿勢がひとたび広範な下層の大衆の怒りを買えばもろくも吹き飛んでしまうという事実を教えています。参議院選挙の勝利に酔いしれ国民無視の傲慢な政治姿勢を示してはばからない政府・自民党についても同じことが言えると言うことです。

三反園氏は当選後「私は原発のない社会を作ろうと一貫して訴えてきました。原発を一旦停止して、再検査し、活断層の調査をすべきだと述べています」

三反園氏の当選は全国の人々を励まし、反原発運動にとっても大きな力となるでしょう。

金曜ウォークへの参加の呼びかけ

2012年8月10日、官邸デモに呼応して始まった金曜ウォークの間、雨の日も風の日も(元旦も!)一度も休まず、去る6月3日(金)で200回を数えました。3.11の福島第一原発の重大事故で原発の危険性が身に染みた市民ひとりひとりが、自分の意志で脱原発の思いを込めて歩き、情報を共有しています。

金曜ウォークの行動自体は毎週金曜日に、各自手作りのプラカードを持って、宇部市役所正面玄関を、18時に出発して宇部新川あたりで折り返す、静かな原発反対行動です。一緒に歩いて見ませんか。



6月3日、200回目の金曜ウォークに参加した仲

編集後記

今回は、上関の原発をめぐる動きをお知らせすることに重点をおきました。

7月、明るいニュースが続いています。

鹿児島では「九州電力・川内原発を停止して点検するよう九州電力に申し入れる」公約を掲げた候補者が現職知事を大差で破って県知事に当選。

佐賀では伊万里市長が「玄海原発の再稼働は認めない。もし事故が起きたら取り返しのつかないことになる。再稼働の連鎖は断ち切らなければならない」と勇気ある発言。

これらのことは、広範な人々のなかに渦巻いている「原発反対」の要求を背景にしたものだの評価することが出来ます。原発反対運動の展望は明るい。

編集部